

消費者インタビューを行いました

(1)大阪

- 日時：2012年11月2日（金）
- 会場：大阪新阪急ホテル 会議室
- 参加者：NACS西日本会員2名

<地域の特徴>

- ・郊外では、灯油は近くのホームセンターで買うのが一般的。先にレジで支払いを済ませ、ホームセンターの駐車場の端にある灯油小屋に車で行きレシートを見せて灯油缶に給油してもらう
- ・他の食品などと同じように生協で注文して配達してもらうことも多い
- ・定期的に生協のミニタンクローリーが音楽を鳴らしながら回ってくるので、高齢者や車を運転しない人などは利用しているようだ
- ・値段はガソリンスタンドよりホームセンターのほうが安い場合が多い
- ・古くなった灯油は、ホームセンターで引き取ってくれるので持って行っている

<阪神淡路大震災のとき>

- ・停電でファンヒーターは使えず寒い思いをしたので、震災後慌てて石油ストーブを買い、それ以来使っている
- ・震災時はもちろん電気も止まった。しかし、石油ストーブがあったとしても、灯油自体が不足していたし、ガソリンもなく車で買い出しにも行けなかったため、灯油を使うものも非常時は使えないと考え、震災後オール電化にした
- ・電気は2時間で復旧し、暖房も煮炊きも電気だけでできたが、ガス、水道のライフラインの復旧は3ヶ月かかった
- ・最近、灯油の値段がかなり高くなり、もしかしたらエアコンの維持費の方が安いかもしれない円高が進んでいるのに、なぜ灯油の価格が高いのかわからない

<石油ストーブを使わなくなった理由>

- ・給油をするときに手に臭いがつくのが一番いやだし困る
- ・一旦ストーブを使わなくなり、度々ポンプで給油する面倒のない生活に慣れてしまうと、再度使おうとは思わない

<その他、疑問点や意見>

- ・石油が使用されている場所、製品などを知る機会がない
- ・省エネルギーの石油使用製品を開発してほしい
- ・石油使用製品の安全性を高くしてほしい
- ・高齢者は長年石油ストーブを使ってきても、重かったり危険だったり自分で灯油を入れられなくなるし、回りの人間が心配して電気ストーブなどに替えるため、ますます使わなくなっている